

年2台極上のピアノ

「欧州に個人の手作りメーカーがあるらしい。ピアノ市場の縮小で老舗が苦戦するなか、新たなメーカーが出てきている。浜松のピアノ関係者の話をもとに探し、イタリア北部で見つけたのは年産2台のピアノメーカー。有名ピアノリストも使うピアノを製造していたのは、音を追究する1人の職人だった。

イタリアの夫婦製造



創業者のルイジ・ポルガートさん(左)と妻のパオラ・ピアンキさん。工房は作業中の2台でいっぱいだったイタリア・ヴェネト州

4弦・足弾き付きも

業界で注目を集める伊フアツィオリ本社がある州の隣、北部のヴェネト州ヴァイチェンツァ県の丘の上にある二元貴族の別荘。現在は教会施設になっている3階の

温かい音「響き真珠のよう」

生産は年2台。教室大の工房内は作業中の2台でいっぱいだった。壁には鍵盤作りで使う工具がかけてある。「ここで

ホールには見慣れぬメーカーのグランドピアノがあった。漆黒の側面が金色に光る名は「ポルガート」だ。創業者は一時フアツィオリでも働いたルイジ・ポルガートさん(50)。当時20代だったルイジさんが91年、妻パオラ・ピアンキさん(48)と始めたという。ホールは教会関係者の協力で、1階にあつた。

実際にピアノを見たい人が訪れるショールームのような場所になっているという。「ようこそ世界一小さなピアノ工場へ」工房は、教会施設から10ほど離れた場所。ロミオ&ジュリエットの舞台ペローナから車で1時間ほど、ソッサノ村のアパートの1階にあつた。

発祥の地で職人よ再び

今取り組んでいるのは、全長333センチ、世界最大のグランドピアノだ。自身の経験から210センチ215センチ、275センチ285センチが理想のサイズで、「333」はさらに約5センチ伸ばした大きさ。音のバランスを失わないまま大きな音が出せるという。

コーヒーを飲み、話をしながら作るんだ」とルイジさん。ゆっくり時間が流れる職人のアトリエだ。手がけるピアノは2種類。弦の数は一般的な3本ではなく4本弦で全長282センチのピアノと、4本弦ピアノの下に足で踏み鳴らす計33鍵の足弾きピアノを組み合わせた「Wピアノ」だ。

足弾きの鍵盤は低音部の約3オクターブ分。鍵盤は棒状のペダルで、オルガンの演奏技術が必要という。試しに踏むと、はじけるような大きな低音が出た。それぞれ21・5万円(3030万円)、31・5万円(4440万円)と高額だが、イタリア国内やスイス、独など欧州を中心に日本にも1台売った。累計販売台数は45台。ロシア人ウ

「私の先生は弦楽器職人。工房の雰囲気はこの香りは弦楽器の工房と同じ」とルイジさん。温かい音は「イタリア弦楽器の職人の音だ」という。このピアノで今年CDを出したフランス人女性ピアノリストのシルビア・レナードさんも「ペダルを踏んでも音が濁らない。一つ一つが真珠のように響く」と評価する。